

科学と社会委員会 メディア懇談分科会（第24期・第2回）

議事要旨

日時：5月24日（木）13：30－15：30

場所：6階6-A(2)会議室

出席者：渡辺委員長、土生副委員長、山極委員、三成委員、赤阪委員

◆議題（1）学術会議の社会への発信について

資料に基づき、渡辺委員長より、日本学術会議のメディア発信について本日御議論いただきたい事項に関する説明があり、意見交換が行われた。

（プレス等への発信の仕方）

- 大学に取材に来る記者に、自分が持つ別の肩書に関する事項について質問をされることがあるが、組織としての正式な発信と個人的な発信とを区別するため、自分はそのような質問は断っている。記者に対して日本学術会議として正式に発信する機会をどのように設けるか、という課題がある。
- 例えば、日本記者クラブと外国特派員協会はよく「記者会見」を行っているが、これは、記者が会見で聞いたことがそのままニュースになる。フォーリンプレスセンターは、週に1回程度「プレスブリーフィング」を行っているが、これは、すぐには記事にならないものの記者の参考となるもの。ほかに、記事にしてもいいが取材源を明かさない「バックグラウンドブリーフィング」というものもある。
- ニュースにもグラデーションがある。刺身のようにすぐに食べる（発信する）のか、それとも調理して日を置いて食べた方がいいのか。それによって、記者用資料も、資料配布のタイミングも違うものになる。
- 記者会見等に記者が来ないというのはよくある問題。記者が聞きたいものと、我々が発信したいものとがなかなか合致しない。そのため、扱うテーマについて、記者が関心を持つような見せ方を考え、その見せ方に合う記者クラブに連絡する等の工夫をしている。
- 日本学術会議が、審議の途中経過を記者に説明する記者ブリーフィングを行えば、日本

学術会議に興味を持ってくれる記者も増えると思う。

- 最終結果を伝えるより、途中経過を伝えるほうがメディアにとって価値が高いこともある。特定の新聞社との連携や情報提供も、戦略的にでき、問題ないはずである。
- 日本学術会議には手が付いていない宝がたくさんある、という見せ方もあると思う。一人の記者がこの宝に気づけば、ほかにも宝に気付く記者が現れるだろう。
- 記者とのネットワークを構築しないといけない。せっかく価値がある提言を出すにも関わらずマスコミへのアクセスがない分科会もある。
- 提言は難しいので、一般的な用語に翻訳してあげないとわかりにくい。現在、提言を发出する時には要旨を作っているが、これをわかりやすい用語で作成するといいいのではないか。
- 動画配信はインパクトが大きい。Youtube には公共チャンネルというものがあり、これはコマーシャルが全くないもの。そういうものを活用するとよいのではないか。スマホ用動画を作成するのもいいと思う。
- 新聞は紙面が限られるため、今はシニアの論説委員はネットに書き込んでいる。論説委員にアピールすれば、ネットで発信してくれるかもしれない。
- 大きな地方メディアは、東京に支社や支局がある。发出する提言等が限定された地域に関するテーマなのであれば、そういうところにアピールすることもできる。今後、地方学術会議を開催する際には、事前に地方メディアにアピールするのもいいかもしれない。
- ファシリテーターは、若手アカデミーからもお願いしてもいいのではないか。今の若手アカデミーは非常に活気がある。ファシリテーターの経験を積んでもらうことで、人材育成にもなる。

(子ども・若い世代への発信)

- 日本学術会議は若手、特に高校生以下とのコンタクトがあまりない。若い世代が学術に興味を持つような仕組みがあるといい。日本学術会議が審査員として、高校生コンテストを実施しても面白いと思う。日本学術会議が考える中等教育について、中等教育の先生たちと議論してもいいと思う。
- 若い人をエンカレッジするような賞を創設したらどうか。学部生向けの賞はあまりない

が、今の学部生は研究の質が非常に高いと思う。

○博物館等と連携するというのもいいと思う。日本学術会議が展示物の解説をするというのも面白いのではないか。

○国連アカデミック・インパクトという国連と世界との大学とのパートナーシップがあり、全世界で1000以上の大学が協力している。この枠組みを利用することも考えられる。国連広報センターと協力することも考えられる。

◆議題（2）国際発信について

○外国大使館は日本の省庁に興味を持っているが、大使館の広報担当者はよく異動するので、省庁側が大使館と連絡を取り続けるのが難しい。日本からロンドン等に派遣されている大使館員は、派遣国の学術団体に必ずと言っていいほど連絡を取っていると聞いている。

○外国大使館の方に向けてのブリーフィングを行ってもいいと思う。

○提言のすべてを外国語訳する必要はないが、例えば、タイトルの外国語訳は必須とし、A4・1枚程度の外国語アブストラクトの作成を推奨すれば、世界に対して色々発信できると思う。言語は英語に限らず、提言の内容によっては他の言語でもいいだろう。例えば、中国に関する提言であれば、アブストラクトは中国語でもいいかもしれない。

○日本学術会議は、海外のアカデミアとの連携ができていない。海外のアカデミアを日本学術会議に注目させるのには、仕掛けが必要。

◆議題（3）その他

【今後の予定について】

○本日の論点整理をして、日本学術会議の方針として内部の意見を聞き、それをまたフィードバックする形でこの分科会で議論していきたい。

(以 上)